



第29回 卒業証書授与式

本日3月1日、多数の来賓のご臨席のもと、卒業証書授与式が挙行されます。山梨県立甲府昭和高等学校第29期生、279名が学び舎を旅立ちます。これで創立以来の卒業生は9,399名を数えます。新卒業生の活躍と輝かしい未来に対し、心からの祝意を表します。



紫映通信

第30号

発行 山梨県立甲府昭和高等学校
印刷 山梨県立甲府昭和高等学校
P T A 事務 印刷 山梨県立甲府昭和高等学校

グローバル時代だからこそ

校長 内藤 剛



第二十九期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんには本校での学校生活を自信に変えて、これからの社会で活躍していただきたいと思います。日頃より本校への絶大なご支援をいただいている小林会長をはじめPTA役員の皆様には心から感謝申し上げます。

さて、現代の社会は、グローバル化により、地球規模で人・も・金・情報が流通する時代となっています。世の中の流れは、我々が予測する以上にはるかに早く、経済だけでなくさまざまな地球規模の問題が一人ひとりに影響を与えています。これらの問題は、一部の専門家があらかじめ用意されている「正解」を適用するだけで解決できるものではありません。

たとえば、環境問題を例に挙げると、国境を越え汚染物質が移動してきたり、地球規模での温度上昇が進んだり、生物の移動による病原菌の拡大等が起きたりしています。これらの問題を解決するには、国による環境に対する行政の政策、経済学や社会学、生物学や化学等多くの専門分野からのアプローチが必要になります。これまでの知識を再構築したり、組み合わせる共同したりしていかねければなりません。このような時、自分の専門分野をしっかりと深めることが大事ですが、特定の専門領域だけでは、アプローチが難しいのです。そこで、必要になるのが、他者とのコミュニケーション能力です。

日本には、四季折々のめりはりある季節があります。さらに日本で生まれ育った我々は、その土地に根ざした「センサー」を持っています。そのセンサーを常に起動させておくことで、異なる文化を持つ人たちとの理解が深まるのです。こんなことを聞いたことがありません。高温多湿の日本において夏の快適な空調システムは、適度な風により汗を飛ばしてくれる方がよいのだが、湿度の少ないヨーロッパでは、風など直接体に当たらない方がよい、とのこと。グローバル時代だからこそ、日本人のよいところを磨き、他者とのコミュニケーションを深めましょう。日本人としてのアイデンティティをしっかりと持てば、外国の文化から学ぶことも多くなる

頑張れ人生のBeginner達

PTA会長 小林 淳



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、ご家族の皆様にはお子様のご卒業心よりお喜び申し上げます。

さて、卒業生の皆さんはこれから進学、就職など大人の社会への一歩を踏み出すこととなります。長く続く景気の低迷や、急速に進む社会のグローバル化、そしてインターネットによる溢れ続けている情報等、色々と困難な情勢が待ち続けます。



はずです。グローバル時代だからこそ、日本人であることを受け止める必要があるのです。

しかし、何も恐れることはありません。その中を生き抜いていくのは一人の人間としての皆さんです。有史以来人は様々な困難にぶつかってきました。それでも人々は知恵を絞り努力をして今日まで生きてきました。皆さん一人一人は温かい血の通った人間です。必ず乗り越えていけると信じています。夢に向かって歩いて行く途中で、様々な壁にぶつかることでしょう。そういう時は焦らず一度深呼吸でもして、自分の進むべき道を上から見てみましょう。道路地図を思い起こしてみてもいい。地図は上からの画になっている

ます。目的地向かう道は幾通りもあることが分かるはず。自分の目線で前だけを見ていると、そこには壁しか見えません。是非落ち着いて夢へ続く道を探してみてください。

また、色々と遠回りをする事も大切だと思います。とかく目標に向かって一直線という方がよいように思われますが、私は皆さんのこれからの永い人生を考えると遠回りをしてもより多くの事を経験していく方がより大きく成長できると思っています。遠回りした人の方が、最終的には疲れを見せずに目標にたどり着けると信じています。そして、つらく苦しいときは我慢せず思い切り泣いて良いと思います。

苦しい涙が頬にしみ込んだ人ほど、他人には優しくできるのではないのでしょうか。

いくら色々な物が発達し、デジタル化が進もうとも、自分の人生は自分の力で一步一步進んでいくしかないのです。皆さんはまだまだ人生のBeginnerです。だからこそ皆さんには無限の可能性があるので。

この甲府昭和高校で過ごした日々を心の糧として自分らしく堂々と歩いて行って下さい。

皆さんが進んでいく未来が光り輝いている事を心よりお祈り申し上げます。

頑張れ！新しい道を歩き始めるBeginner達！

卒業生に贈る言葉

ここから進む力

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

塚 原 卓 郎

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましては、心からお祝い申し上げます。

皆さんが、それぞれ学んだ中学校から昭和高校に入学したのは二〇一二年でした。大きな衝撃と影響を日本に残した東日本大震災から一年余りが過ぎた四月に、昭和高校に希望と不安を交錯させて入学式を迎えたのが、ついこの前のことと思えます。世の中は、被災地の復興はもろろん、これからの日本の行く末が見えにくい中、皆さんは昭和高校で過ごした三年間で成長しました。

校訓である「自主創造」に、それぞれの人がそれぞれの思いを持っていてと思います。自ら考え、自らの道を整え歩んでいく。この過程が成長そのものと感じています。皆さんは、卒業後の自らの進路を決めてきました。先生方の親身な指導の下、家族や友人と相談しながら決めたその進む道は、それぞれが誇れるものです。

これからは、高校という自分を見守っていかれた場所から、社会という様々な力が働く世界に出て行くこととなります。入学の当時、「高校は子供達の世話をする最後の機会」といった主旨のお話を先生からお伺いしました。高校卒業後に自分で判断して歩んでいく力の基になるものを築いてほしいと思いつつ子供とも接してきました。「真理を愛し、たくましく、心豊かな人間を育てること」を目指した昭和高校での生活も終わろうとしています。自分の思いを見つめ、そこに真理があるなら、成し遂げられるはずで。道はそのまま続くか、変わるかもしれません。でも、求めていく限り道は開かれていくはずで。

大人の務めは、次の世代が様々な選択を実現し、安定した生活が出来るよう社会をつなげていくことだと思いますが、現実には厳しいものがあると感じています。これから世の中への歩みを進めていく皆さんが、新しい力となって未来を照らしていてくれることを願っています。

卒業にむけて

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

鈴 木 秀 雄

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

皆さんにとってこの甲府昭和高校での三年間は、今後の人生の基礎となる大切なものであったと思います。多くの友人に出会い交流を深める中で、自分を振り返り多くの事を学ぶ機会があったでしょう。先生方からは、知識はもちろん、今後の人生の指針となるアドバイスや物事の考え方を学んだことでしょう。

I M F【国際通貨基金】のラガルド議長があるインタビューの中でこんなことを言っていました。今までいろんな困難があったと思いますが一番大変だったのはどんなことですか？の質問に対し、「それは自身の内なる弱さに直面した時です。いつも小さな弱気が湧くたびに自分と戦わなければならなかった。だから困難にあった時には、いつも歯を食いしばって笑顔を見せる。大丈夫、できると言う。自分自身の中に響くその声が私の力になってきた。」この記事を目にした時、サッカーの本田圭佑選手やテニスの錦織圭選手が同じような事を言っているのを思い出しました。世界のトップで活躍している人たちがですが、私達と同じように困難に直面し、すごい努力をして乗り越えてきているのだと。このトップランナーに学ぶことは、困難に直面した時、歯を食いしばって自分を信じ「大丈夫、できる」と笑顔で言い続けることではないでしょうか。表彰台の一位は一つしかなく、みんな一位になれるわけではありませんが、目標に向かっていく姿勢の中に、自分自身が納得できる事と出会えるのではないのでしょうか。

卒業後は、今まで歩んできた学校生活から環境も大きく変わります。親元を離れて一人で生活する方も多いでしょう。今後生きていく中で、楽しい事ばかりではなく悲しい事や悔しい事、逃げたくなる事もあるでしょう。けれど、この経験が皆さん自身を成長させていく大切なことなのです。そして困難に直面したら、その時には笑顔で「大丈夫、できるから」と自分自身に声をかけてあげてほしいと思います。

卒業生の皆さん、未来に夢と希望を持ってご活躍されることを、心からお祈り申し上げます。

あなたの人生の歴史

P T A 副会長 (二学年部会委員長)

五 味 勝 己

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの卒業する「甲府昭和高校」が設立された頃、私も皆さんと同じように高校を卒業しました。そのころが懐かしく思えます。義務教育を終え、各自の思いで高校を選び、受験し入学した三年前、この三年間いろいろな出来事がありましたね。楽しいことも、辛いことも、もかしら思い出したくないこともあったかもしれませんが、でも、そのすべてがあなたの高校生活であり、あなたの人生の歴史です。生まれてからの十八年間すべてがそうではないですか？ いろんな経験をし、多くの人と知り合い、たくさんの方の事を学んできたと思います。

七十億人の人類がいる中で、あなたの知っている人は何人いますか？ 世の中にはまだまだ知らない人がたくさんいます。そして知らない事もたくさんあります。この先、多くの人達と巡り合い、たくさんの方の出来事を経験して行くのです。そして、またあなたの歴史を積み重ねていくのです。

人との出会いは、すべてが偶然な縁だと思えます。これまでの人生の分岐点で、何か一つ違っていたら出会っていなかった人もいます。たとえば、お母さんがあなたを産んでくれていなかったら、あなたは今存在しないのです。また、昭和高校を選択していなければ、今の仲間や先生と知り合うことができなかったかもしれないのです。その偶然出会った人たちと一緒に、あなたは人生の歴史を作っているのです。今まで育ててくれた家族、諦めることなく指導してくれた先生方、一緒に汗を流した仲間、地元地域の人たち、周りの人達があなたの人生です。

これから先も、あなたに関わってくれるすべての人に感謝できる様な心を持ててください。そんな大きな心でいられる余裕を持って下さい。そのためには、努力し、学び、経験を積んでゆくことが必要だと思います。当然すぐに成し得ることではありません、日々の積み重ねです。それもまたあなたの人生の歴史です。そしていつの日か、お世話になった人達に恩返しできるような人になってください。とはいえ、あなたが幸せで有意義な人生を送ってゆくことが、一番の恩返しかもしれません。楽しい歴史を刻んでください。

P T A各専門委員会より

卒業にあたって

進路指導部専門委員長 許山好美

第二十九期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんひとり一人の努力と共に、友達との優しさやご家族の愛情に支えられ、三年間の高校生活を過ごす事が出来ましたね。卒業生の皆さんと共に、ご家族の皆様方にも心よりお祝い申し上げます。

皆さんはこの甲府昭和高校で勉学に、部活動に、学校行事にとさまざまな事に情熱を注ぎ、とても遅うとして成長し、それぞれの新たな道に向かい歩き出しているところでしょうが、この貴重な三年間の経験がこれからの人生に必ず役立つことでしょう。

皆さんはこれから社会人へと一歩ずつ近づいて、自分自身で判断を下さなければならぬ場面が多くなってくると思います。判断をしなければ先に進めない場面に直面した時、まずは一度落ち着いて自分自身を再確認してみてください。なぜ自分はそうしたいのか？(意志確認) なぜ自分はそうしようと思ったのか？(経緯確認) そうした場合どうなっていくのか？(見込確認) 一度冷静になって振り返ると、本当の自分自身が見えてくるかもしれません。周りの状況、環境、焦りなどから判断を急いでもう事も多く、その場合に本当に自分がやりたい事が見えなくなっていることもあります。皆さんはまだ若く可能性は無限大にあります。人間は「決断の場面」を重ね重ね経験し成長して行くのだと思いますが、迷った時こそが成長するチャンスかもしれません。そんな時に一度、このことを思い出してみてください。

また、私たちの住んでいる日本も今、判断をしなければいけない場面にあるのかも知れません。急速な国際化、少子高齢化問題など避けては通れない問題に直面しています。そんな日本の将来を判断して行くのは、今羽ばたこうとしている貴方達の役目になってくるかも知れませんね。それまでに皆さんが多くの経験を積み、知識を蓄え「決断の出来る人間」に成長している事を期待しています。将来の山梨、もしくは日本の為に、皆さんの今後の成長、活躍を期待して止みません。

人生は時には辛い時もあるかもしれませんが。そんな時、このすばらしい甲府昭和高校を思い出して下さい。皆さんには甲府昭和高校で過ごした三年間という何にも代えがたい事実があります。友達がいまいます。先生方がいます。一緒に悩み、相談に乗ってくれる人が沢山いることを忘れないで下さい。

最後になりますが、三年間ご指導いただきました校長先生をはじめ先生方におかれましては、心より感謝を申し上げます。皆様の今後のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

卒業を迎えて

生徒指導部専門副委員長 半田弘子

甲府昭和高校第二十九期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。甲府昭和高校で学んだ多くの事が、皆さんの人生の糧になっていく事を願っています。

またご父兄、保護者の皆様には心からお祝い申し上げます。

生徒指導部としての活動は少なかったですが、重大な事故や事件も無く無事卒業できた事を感謝し、とても嬉しく思います。保護者のひとりとして、常に甲府昭和在校生を見守ってまいりました。

多くの物の価値や価値観、世の中のモラルといったものは、時代によって変わるのとは自然な事と受け止めながらも、学生達は今を精一杯頑張って生きていく様に感じます。この三年間を無事に送ることができたのは、教職員の皆様、保護者の皆様の温かい指導や見守りと、何よりも生徒自身の努力だと思っています。

卒業生の皆さんは甲府昭和高校で過ごした日々をどう感じているのでしょうか。人生で最も多感な時期です、いろいろな悩んだり悔んだり、また楽しかったり嬉しかったりと、沢山の事があったでしょう。学業、部活動等を通して、かけがえのない大切な仲間もできた事と思います。卒業してからは、歩く道は色々です。進学したり社会人になったり、新しい一歩がこれから始まるのです。何の苦も無く一歩が始まる人もいれば、なかなか進めなくて時間が掛かる一歩も有ります。人はそれぞれ違っていて当然です。どんな道でも、その一歩は確実に有る事を忘れないでください。自分に自信を持って前に進んで下さい。「君は一人じゃないよ」って、多くの人達の声援がいつも温かく見守っています。自分自身に悔いの無い人生を歩んで行かれる事を、心から願っています。

最後に甲府昭和高校の教職員の皆様、卒業生のご家族、そして卒業生の皆さんの今後の活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

卒業生のみなさんへ

保健体育部専門委員長 大澤美樹

第二十九期卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。

保健体育部は、強歩大会の運営協力が主な活動になっております。当日、ご協力いただいた保護者の皆様、役員の皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

今年度の大会は天候にも恵まれ、無事に開催されました。この時期、ほとんどの三年生は勉強中心の生活です。運動部に所属していた生徒でも、短縮コースの昨年度以上に、きつく感じたのではないのでしょうか。

スタートの合図と共に、一斉に全力疾走する姿に、完走(完歩)できるのか、心配になるほどでした。しかし、再び校庭に帰ってきた生徒たちは、足取りは重そうですが、笑顔に満ちていて、安堵すると同時に感動を覚えました。

卒業生の皆さんは、三年間の高校生活で、多くの行事に取り組み、先生、友人、先輩、後輩たちといろいろな思いを共有し、関係を深めてきたことでしょう。

楽しかった事、嬉しかった事、もちろん辛かった事もたくさんあったと思います。その全てが、皆さんの「心の糧」にはなるはずです。辛かった事でも、数年後、「あの経験があった良かった」と思えるような未来であることを望みます。

卒業後は、社会人となる人、進学する人と進路も居所も様々です。しかし、甲府昭和高校で学んだ三年間を心に刻み、それぞれの場所ですそれぞれの道に、自信を持って、力強く第一歩を踏み出して下さい。

最後になりましたが、教職員の皆様には、時には厳しく、時には優しく、深い愛情を持ってご指導いただき、ありがとうございます。感謝申し上げます。

甲府昭和高校の全教職員の皆様、保護者の皆様、卒業生の皆様のご今後の活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

教養

この一年を振り返って

主任 矢野 由美子

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

図書館では、皆さんの学びを深めることと、豊かな心と自己実現を図る力の育成を支援できるよう心がけております。その主な仕事として、生徒や先生方への図書の出・返却、購入図書の選定、図書館を利用した授業のサポートを行っています。また、より多くの生徒に、図書館を利用してもらえよう、月一回発行の「図書館つうしん」で図書委員のお勧め本や新

書の習慣が身につけていく生徒が増えることを期待し、来年度以降も実施していきたいと思ひます。

教養係のもう一つの仕事として、文化行事を通じて、生徒が豊かな感性を育むことができるよう教養公演を実施しました。今年度は、コラニー文化ホールで演劇鑑賞を行いました。劇団鳥獣戯画による「トリップング・ミスター・じじい」の演技に生徒は皆、演劇の魅力に引き込まれたことは言うまでもありません。

これからも、生徒一人ひとりの豊かな教養や感性を育む手助けとなるような運営を心がけていきたいと思ひます。

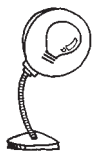
総務

一年間の活動報告

主任 千野 満 広

祝卒業、二十九期生の皆様。今年度のPTA活動としては、七月の関東高校PTA大会に小林会長に、八月の全国高校PTA大会には、塚原副会長に出席してもらいました。また、進路専門部は六月に進路講演会を実施しました。保健体育専門部は十月に、強歩大会に備えての心肺蘇

生法の講習会を実施しました。大会では、多くの保護者の方々の交通指導などのご協力をありがとうございました。生徒指導専門部では、年間数回の登校時交通指導を行っていただきました。さて、今年度は、山梨県高等学校PTA連合会で、各家庭での取り組みの依頼が二つありました。一つ目は、「危険ドラッグ」乱用防止についてです。危険ドラッグを所持したとして同法違反の疑いで、県内の高校生が逮捕されるという事件が起きたことにより、家庭でも指導をお願いしたいという内容です。もう一つは、「ケータ



イ・スマホの使用に関する」基本的ルールです。情報機器の利用の仕方によっては、高校生が暴力・いじめの被害や性的被害にあうことも否定できません。そのため、スマホ等の利用についてPTA全体でルール化（食卓にスマホ・携帯を持ち込まない、他人の悪口を書かない、ゲーム等の利用は控える、個人情報を書かない等）しようとしたものです。ぜひご家庭でも取り組んでいただけることをお願いいたします。

研究・研修

研究研修係の一年

主任 藤 田 晴 彦

二十九期生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。一年次より学年所属の職員として三年間一緒に過ごさせていただき、大変幸せに思っております。

さて、それでは研究研修係の活動を報告します。主な活動は、生徒の学力向上のための学習環境の整備、教師の授業力向上、キャリア教育の推進の三つです。今年も様々な活動を企画・運営しました。さらに、今年はSGHアソシエイト校としての活動が新たに加わりました。SHGはスーパーグローバル

ルハイスchoolの略称で、「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会問題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的に文科省が今年度新しくスタートした事業です。その事業の募集に本校も申請しましたが、残念ながら全国五十六校の指定に漏れ、次点であるアソシエイト校に指定されました。

アソシエイト校としての活動は、一年生が総合的な学習の時に

教務

自主創造

主任 小河内 照 仁

第二十九期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教務係は、授業を中心とした学校の活動を計画・実施することが主な仕事です。高校の授業は内容も専門性を増し、苦戦したこともあったかと思ひます。しかし、苦勞して手に入れたものは簡単にはなくなりません。是非、これからのみなさんの人生に活かして欲しいと願っています。

さて、世の中は今までにない勢いで激しく変化しています。物の生産は労働力の安価な地域で行われ

先進国では、情報、サービスに関する絶え間ない創造が経済発展の基盤となっています。デューク大学の予測では、「二〇二一年にアメリカの小学校へ入学した子供の六五％は、大学卒業時には、今は存在していない職業に就くだろう。」とも言われています。これらを背景に、日本の教育も知識偏重から思考力、判断力を重視するように変わってきています。最近では、大学入試が思考力、判断力、表現力等を重視する問題へ変わるとニュースでも大きく取り上げられました。

間に「地域活性化」「環境」「産業」「文化」「スポーツ」の五つの分野において、それぞれの専門家の講演を聴くことにより自分たちの周りにおける様々な問題に興味・関心を持つような姿勢を育てることを目的に現在まで活動してきました。さらに来年度はその活動を発展させ、地元「昭和町」に目を向け、昭和町の抱える課題を発見しその解決方法を探究していくことを研究テーマに考えています。この活動を通じて、地元の良さを認識し、社会的な課題を自ら発見し解決する能力を備え、これからの世の中に貢献できる人材に育つことを期待しつつ、来年度の活動をさらに発展させたいと考えています。

昨年度より、本校でも学校全体で授業改善に取り組み、グループ活動、発表、熟議などを通して、思考力、判断力、表現力等を育てることに力を入れてきました。情報や知識はインターネットで検索すれば簡単に手に入りますが、現代社会が抱える様々な問題の解決策は手に入りません。それらを解決するためには、自ら考え判断し行動する力、それらを駆使して新しいものを創造する力が必要となります。これこそが、本校の校訓「自主創造」です。

みなさんが、本校の三年間で培った力をさらに伸ばさせ、それぞれの個性を生かし社会に貢献することを願っています。

卒業に寄せて

年間活動報告と

生徒会

TRY... SHOWA

主任 熊谷

剛

う……、私たちが
創り上げた「トライ
ス」はついに立
体となりました。

生徒指導

一年を振り返って

主任 村松 親志

ご卒業おめでとう
ございます。心
よりお祝い申し上
げます。保護者の
皆様にとっても感
慨ひとしおの事と
拝察いたします。

平成二十六年
は、校訓『自主創
造』を体現した第
二十九期生の大き
なパワーがあふれ
ていました。本校
生徒会にとって、
大変大きな成果を残した年となり
ました。

高身体能力を持ち……
高い知性を持ち……
リスのように
好奇心旺盛な……

昨年十月の後期生徒総会に
て、生徒会執行部から『生徒会公
造』を体現した第
二十九期生の大き
なパワーがあふれ
ていました。本校
生徒会にとって、
大変大きな成果を残した年となり
ました。

そんな甲府昭和生のイメージを
創造したキャラクター』であ
り、何事にも挑戦する甲
府昭和生をイメージし、
TRY... SHOWAの意味
も込めて、『トライス』は、
誕生しました。



四月以降、平面的な「ド
ライス」は、校内で活躍し
始めました。配布されるプ
リント・校内の掲示物・小
中高連携事業の挨拶運動ポ
スター・クラブポロシャツ
等に登場し、更に、正面玄
関先の階段に階段アートと
しても出現しました。
そしてみなさんの記憶に
も刻まれているはずでしょ

進路指導

新たな挑戦

主任 池谷 佐知子

“トライス”作成に大きく貢献
された、第二十九期卒業生のみ
なさんに心からお礼を申し上げ、
“トライス”が甲府昭和生と共に
歩んでいく
事を約束し
て結びとい
たします。



第二十九期生の皆さん、保護者
の皆様、ご卒業おめでとうござ
います。心よりお祝い申し上げ
ます。
皆さんは新学習指導要領の先行
実施学年となり、校内諸活動にお
いても大学入試に関しても、新し
い方式への対応が求められまし
た。数学・理科の新教育課程の履
修、大学センター入試での科目選
択方式の違い、過去問が通用しな
い、模試を手掛かりにした手探り
の受験対策、センター試験会場も

四か所に分かれる……等々。全国
の高校生が同じ条件とはいえ、不
安や戸惑いが付きまとう状況でし
た。それにもかかわらず、三年生
の皆さんは、先生方のご指導に支
えられながら、これら数々のチャ
レンジに果敢に立ち向かい、一つ
一つ克服してきました。まさに本
校の校訓『自主創造』を体現した
三年間だったといえます。
今年度の入試を振り返ると、教
育課程の完全切り替えによる科目
変更を避けようと、受験生が「現

役合格」にこだわり、昨年度同様
「安全志向」が特徴となりました。
県内でも国公立大では推薦入試を
利用して、確実に合格を決めたい
という傾向が見られました。その
中で三年生は妥協することなく、
自分がどの段階・どの方式で力を
発揮できるかを見極めながら、着
実に学習を続け、力を伸ばして、
自分の目指す道を邁進し、進路実
現を果たしてきました。その姿勢
と、学習室で毎日遅くまで集中し
て受験勉強に励む姿は、常の後輩
たちのお手本となってくれました。
これからの時代は、社会のグ
ローバル化に対応できることが求
められています。知識・技能を活

用し、熟議や協働により課題を発
見し、問題を解決する力、プレゼ
ンする力等々……旧教育課程で
は学べなかった能力を、皆さんは
甲府昭和高校の三年間で身に付
けてきました。皆さんなら、この力
を各自の新しいステージでさらに
鍛え、社会で活躍する原動力にで
きると確信しています。
皆さんが今後益々精進され、山
梨、日本、そして世界に貢献され
いくことをお祈り申し上げます。



保健・環境

保健環境係の一年

主任 風間 久幸

三年生の皆さん、保護者の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご存じかと思いますが、今年度から保健係と環境教育係が統合され保健環境係となりました。保健環境係はこの一年間、生徒の健康増進、教育相談の推進、学習環境の整備、エネルギー・環境教育の充実を柱に様々な活動を実施してきました。

学校保健の面では、日々の保健室業務に加え、各種健康診断、長期休業明けの健康観察、学校行事

に備えての健康相談などを行い、その結果をもとに生徒に対して個別の健康指導を実施しています。さらに定期的に「ほけんだより」を発行し、健康に関する正しい知識の啓蒙に努めています。また本校では教育相談に力を入れています

が、原則週一回スクールカウンセラー(SC)が来校し、生徒はもとより、保護者、教員に対してもカウンセリングを行っています。個人情報厳守していますが、必要な情報は学年や担任、外部の医療機関などと

も共有し、身体だけではなく心の面でも学校全体で生徒をケアする体制を組織しています。

環境教育の面では、日々の清掃活動を大切に、月例大掃除、ワックス塗布、安全点検などを通じて安全で快適な学習環境の維持・管理に努力しています。残念ながら三十年を経過した施設・設備には老朽化も見えます。予算等の制約もあり、望むような改修はなかなかできませんが、そのなかで事務

室と連携しながら、できる限りの改善をはかっています。さらに生徒の環境・エネルギー意識を高めることを目的として、東京の科学技術館を見学し、東京都立大学・

東京海洋大学で専門家の講義を受ける校外学習を企画・運営しました。また地域美化活動「クリーンキャンペーン」を実施し、紫映祭では環境美化委員会を指導して環境問題・リサイクルをテーマとした展示を行いました。

ストレスの多い現代社会において、健康で健全な生活を送ることは大変なことです。自らの健康管理に気を配るだけではなく、自分にとってより良い環境を整えていく努力も必要でしょう。大切なのは意識のあり方だと思います。卒業生の皆さんが高い自己管理の意識をもち、なによりも健康で、益々活躍されることを期待しています。

情報

一年間の活動報告

主任 岩 下一 浩

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。現代は情報化社会といわれます。周りに様々な情報があふれている中で、その情報を取捨選択し、利用することは必要不可欠なこと

です。しかしながら情報に流され、振り回されてもよくはありません。教育の場において、生徒が、視聴覚・情報教育機器などの教材を利用し、情報モラルを身につけ、コンピュータや情報通信ネッ

に携わっていますので、少し、紹介させていただきます。

広報分野に関して、ホームページの更新、本校広報誌「TRY SYOWA」の編集、学校紹介ビデオの作成などを行っています。卒業生、在校生の皆さんには、写真掲載等へのご協力に感謝致します。公式ホームページにおいては、甲府昭和高校のよさ、特色、学習や部活動、学校行事などの様子を広く皆様に知っていただくために公開し、日々更新しています。本校生徒の生き生きとした活動の様子を、保護者や地域住民の方々に正確で、より新しい情報をお知らせしています。併せて本校を志望している中学生及びその保護者の方々も意識しながらの発信を心がけています。その際には、個人情報

報等へ配慮しています。

広報誌「TRY SYOWA」の編集、発行を、今年度は五回行います。本校マスコミキャラクター「トリスくん」も仲間入りし、中学生にもわかりやすい紙面になるよう工夫しています。

次に、情報視聴覚機器に関することとして、生徒用コンピュータやワゴンプロジェクトなどの教育機器等の管理や利用に関することを行っています。教育にICT(情報通信技術)の活用が進む中、授業などにおいても、情報視聴覚機器があらゆる場面で利用されています。

これからも生徒のために、情報視聴覚教育に関する環境を整え、教育活動が円滑に行えるようにサポートしていきます。



芸術の秋 文化祭 甲府の文化を学ぶに最適な機会

情報係として、

広報関係及び校内情報視聴覚機器の利用に関するこ

平成26年度 PTA 年間事業

- 4月8日 入学式・新入生保護者会
- 18日 PTA各学年部会委員会・専門委員会・役員会
- 26日 公開授業・PTA学年部会総会・PTA総会・PTA学級懇談会
- 5月15日 県高P連第1回理事会(笛吹市スコレ)
- 23日 県高P連定期総会(笛吹市スコレ)
- 6月10日 PTA専門委員会(進路) 進路講演会(3年保護者対象)
- 28～30日 甲府昭和高校紫映祭 29日：一般公開日
- 7月4～5日 第60回関東高P連大会(群馬県) (小林会長・小川教頭)

上旬から 三者懇談(1・2・3年生各クラス随時)

8月22～23日

第64回全国高P連大会(福井県) (塚原副会長・内藤校長)

9月16日

県高P連研修大会

10月2日

PTA専門委員会(保体)

30日

校内強歩大会

1月26～29日

三者懇談(1・2年生)

2月13日

県高P連第2回総会(笛吹市スコレ)

20日

PTA学年監査(3年) 学年部会委員会(3年)

3月1日

第29回卒業証書授与式、PTA第3学年部会総会

16日

PTA学年監査(1・2年) 学年部会委員会(1・2年)

年間

登校時交通指導(生徒指導専門部)

学 年 報 告

卒業に寄せて

三学年主任 丸 山 淳



みなさんと過ごした三年間、本当にアツと言った。みなさんとの出会いの朝、私たちは、昭和町の図書館の駐車場で車を止め、学校マイクロスパスで移動しました。その時、何人かの先生方から「いよいよ始まるね」と声を掛けられたこと、今でもはつきり覚えています。あれからもう三年が経つのです。

私が学年主任としてみなさんに求めたことが二つあります。一つ目は「あいさつをしよう」でした。これは本校創立以来大切に受け継がれてきたさわやか教育の一つで、特に「あいさつ」は、気持ちを声に出すことでお互いがその場で文字どおりさわやかな気持ちになれると思うからです。初めは「あいさつを返してもらえない」といった声が聞きましたが、今では返事をもらうためではなく、自分の気持ちを伝えるという真の

あいさつができていると思います。社会に出て、この素晴らしい習慣は継続してください。二つ目は「検定を受けよう」でした。授業の予習・復習や課題、活発な部活動で一杯だったと思いますが、多くの人が挑戦してくれました。みんなの知的好奇心には頭が下がります。私の狙いは検定に合格してもらう以上に、落ちて悔しがって欲しいことでした。

さて、みなさんはこれから新しいステージでの生活が始まります。幾多の苦難を乗り越えて手にしたステージです。援助してくれた保護者の方、愚痴を聞いてくれたクラスメイトや先輩に感謝する気持ちを忘れないでください。そして新しいステージでも、事を起こさないで後悔するのではなく、多少の失敗を恐れず果敢に挑戦するチャレンジ精神を忘れずに頑張る努力してください。三年間みなさんを身近で見てきたのではありません。最後にになりましたが保護者の皆様、お預かりしたお子さんをお返りする時が来ます。皆様の期待

に応えられたか不安ではありますが、学年職員一同精一杯頑張ってきました。三年間多大なるご理

解とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

一年を振り返って

二学年主任 熊 王 和 彦

第二十九期卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。この一年、三年生の皆さんが示してくれた最上級生としてのあるべき姿、人の上に立つというのはどういうことか、どうすればよいのかということ、二年生もしっかりと学ぶことができた。甲府昭和高校のリーダーとしてのバトンを引き継ぐ責任の重さを感じつつ、皆さんの門出をお祝い申し上げます。

さて、私たち三十期生の高校生活も残すところあと一年となりました。今年度、二年生では基本的な生活習慣の確立と確かな学力の定着を基盤として「豊かな人間性を育むこと」を重点目標に掲げて取り組んできました。それを体現する場として二度目の挑戦となる紫映祭と三泊四日の沖縄研修旅行という二つの大きな行事を設定し、これまでの学校生活を通して身に付けてきた力をどこまで発揮することができ、二学年の力を確認しました。紫映祭では去年の経験を生かして皆が積極的に取り組んだと思います。その結果、合唱

や窓絵、新聞など、どのクラスもすばらしい出来上がりで、今でも強く印象に残っています。一方、研修旅行の取り組みは夏休み前の行動班編制から順次スタートしていったわけですが、パワーポイントを使った事前学習発表会では各クラス代表の生徒の堂々としたプレゼンテーションが見られ、学年として沖縄の自然や文化について多くのことを学び合いました。現地では戦争の傷跡を実際に見て、同世代のひめゆり学徒の人生を考え、あらためて平和な時代に生まれてきた幸せをかみしめる貴重な体験ができました。五分前行動が随所で発揮され、厳しい日程を危なげなく終えられたことは生徒の成長の証だと思っています。生徒に常々言っている真の「自立」に向けて、今後も地道な指導を継続していきたいと考えています。

最後にになりましたが、保護者の皆様にはこの一年間、多大なるご理解とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。来年度も引き続き宜しくお願い致します。

大いなる人明日を築かむ

一学年主任 矢 崎 敏 明

千利休が「規矩作法 守り尽くして破るとも 離るるとも本を忘るな」と歌ったのが始まりだとも言われる「守破離」という言葉。茶道や武芸、芸能などで使われるこの言葉、「守」とは、最初の段階では指導者の話を守ること。多くの話を聞き、行動を見習い、指導者の価値観を自分のものにする。すべてを習得できたと感じるまでは指導者の指導の通り行動するということ。「破」とは、指導者の話を守るだけではなく、破る行為として独自に工夫して新たな方法を試すということ。そして「離」とは、指導者のもとから離れて自分自身で学んだ内容をさらに発展させるということ。

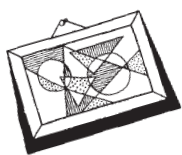
つまり、まず真似をして、次に自分の個性を混ぜてみて、最後に新しいものをつくっていくということ。これはどんな世界でも通用する考え方です。

「豊かな人間性の育成」、「基本的な生活習慣の確立」、「学習指導の充実・基礎学力の定着」を重点目標にスタートした一年生ですが、一年が過ぎようとする今、進路行事や生徒会行事、校外活動などを通して顔つきはすっかり高校生になりました。しかし、開校以来の「さわやか教育」を中心に、学校

生活、学習、部活動など、高校生としてより高い目標を目指し、基礎を大切にしてきたつもりですが、その取り組みは十分ではありません。スポーツで「守」りだけならば得点できないのと同じく、学習では基礎を固めるだけではなく、それを応用していく力が求められます。

この一年間、「何のために学ぶのか」という校長先生の言葉を受けたチーム三十一期が、友情を深めながら「破」を意識して行動することに期待しています。

明日を築こうとする者は進路実現に向けて「自主創造」の熱意ある取り組みができるはず。最後になりますが、保護者の皆様には、この一年間多大なるご理解とご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。来年度も引き続きよろしくお願ひいたします。



学校評価

H26年度

生徒・保護者の評価結果について

学校評価は、教職員や生徒・保護者が行う自己評価と、その自己評価をもとに学校評議員や地域住民等の方々が行う学校関係者評価です。その結果を受けて学校の課題を明らかにし、次年度の学校運営に生かすことが目的です。自己評価に向けて、1月に生徒と保護者の皆様を対象にアンケートを実施し、保護者の方からは約97%にあたる810名の回答をいただきました。お忙しい中での協力に深く感謝いたします。ここでは、結果の概要と主な課題について報告させていただきます。詳細については、教職員の自己評価と併せて、後日学校HPで公開させていただきます。

【生徒の評価結果について】

生徒のアンケートは、19項目について4択形式(①そう思う②どちらかというと思う③どちらかというと思う④そう思わない)で行いました。まず全19項目のうち、質問内容を改めたり新規に設けたものを除いた16項目の中で、肯定的評価(①+②)が昨年度よりもアップしたものは15項目あり、「教養公演会は自分の感性や教養を豊かにするために効果があった」という項目のみが7・1ポイント下がりました。本年度は演劇で昨年度は講演会と、ジャンルが異なるため単純に比較はできませんが、86・6%が肯定的評価であることは、高い評価を得ていると見なせる数値だと思います。雨天であったため、自転車で移動が大変だった印象が影響したかもしれません。5ポイント以上のアップは、「エネルギー教育関連施設見学等を通して、エネルギーや環境について理解が深まった」

【保護者の評価結果について】

保護者の方々は、21項目について4択形式(①そう思う②どちらかという思う③そう思わない④わからない)で、アンケートを行いました。今年度新たに追加した2項目を除いた19項目の中で、昨年度よりも①(「そう思う」)が上昇したのは11項目ありました。5ポイント以上の上昇は「(新学習指導要領に対応する)授業改善が行われている」(+7・9)、「生徒会活動が活発で、生徒のリーダー性、社会性が育っている」(+7・8)、「

(+10・9)、「学習活動や読書などにおいて、図書館を効果的に利用した」(+7・4)、「生徒会活動は自主的かつ計画的に行い、活発である」(+6・5)、「ホームページはわかりやすく、魅力的である」(+5・6)の4項目でした。本年度の取組が評価されたわけですが、図書館の利用及びホームページに関しては、肯定的評価がそれぞれ40・5%、63・8%であることから、今後さらに改善を目指して取り組んでいきたいと思えます。昨年度までの「ボランティア活動は活発である」という評価項目は、今年度は「ボランティア活動を実践したことがある」という質問に変えました。これは、ボランティア経験に関する生徒の実態を正確に把握したいという意図からです。その結果は、3回以上「ある」と答えた生徒は28・3%に過ぎず、1・2回程度が41・8%、全くない生徒も29・4%いました。今後は、ボランティア活動の情報や機会の提供の仕方などについても考えていく必要を感じました。

「わかりやすく、魅力的なホームページになっていく」(+7・3)でした。授業改善については、ここ数年、教職員全員で言語活動の活性化などの取組を行ってまいるので、今後とも授業公開等での様子を見ていただきたいと思います。また、生徒会活動に関しては、紫映祭や各部の活動、小中高の連携事業などを通して、生徒の様々な成長や能力の向上も見られます。保護者の皆様にも評価をいただき、大変嬉しく思います。生徒会公認キャラクター「トラリス」の誕生もありました。ホームページに関しては、昨年度の結果、改善が求められていた項目でした。今回は④も7・9ポイント低下し、①の上昇と合わせて、今年度の取組を評価していただけたように思います。ただ、①の数値は36・9%と、まだ十分高いとは言えませんが、今後とも充実したホームページとなるよう力を入れていきたいと思えます。一方、①の数値が5ポイント以上低下した項目は、「教養公演会(演劇)」により豊かな感性や教養が生徒に育成された(マイナスイナス22・8)の1項目でした。生徒評価結果の考察でも述べたように、昨年とは内容・ジャンルが異なるため、簡単に比較はできませんが、生徒の豊かな感性を育む企画が提供できるように、今後も一層努めて参りたいと思います。

新規の設問「甲府昭和高校連絡掲示板は、適切に機能している」については、情報をできるだけ早く載せて欲しいという要望をいただきました。台風や大雪などの天候に伴う始業時刻変更等については、登校時の状況がより正確に予測できる当日朝の情報に基づいて判断していきたいと思っております。御理解、御協力をお願いいたします。(文責 教頭 佐野 修)

紫映残照

今年度、生徒の皆さんのことで特に印象に残っていることが二点あります。

一つは本校の特徴である「さわやか教育」に関することです。さわやか教育」の中に、「五分前行動の推進」がありますが、全校集会を始め、様々な場面での五分前行動が推進されていきました。時に私が生徒のみならず、場面もありました。次に何をやるのかを認識されているので、時間を守り守る事が出来ています。慌てることなく、余裕がある行動に「さわやかさ」を感じます。

もう一つは、生徒総会に関することです。総会の中で、ほとんどの生徒が意見を言うときに、まず自分の意見を言う、その後、その理由を述べ、最後に自分の意見をもう一度伝えていたのです。中には、理由の具体的な例を挙げている生徒もいました。簡単なようですが、このような基本的で大切な方法が生徒総会という大人数の前で出来ていることが素晴らしいと思いました。さて、甲府昭和高校は、昨年度創立三十周年の節目を迎え、一世代を終え、今年度は新たなステージに入っています。生徒会公認キャラクターの「トラリス」が、誕生しました。学園祭や学校説明会などの学校行事だけではなく、地域の活動にも参加して、本校のイメージアップに貢献しています。

トラリス誕生

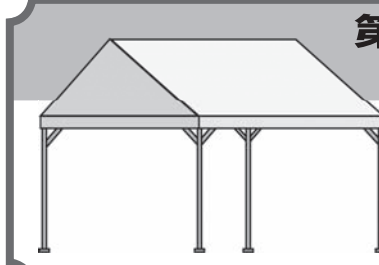


第29期卒業生 卒業記念品

テント

学園祭・強歩大会などで利用して下さい。

第29期卒業生一同



ス」が紫映祭の初日にデビューしました。また、山梨県でインターハイが開催され、本校の多くの生徒が運営に協力してくれました。更に、SGHアソシエイトの指定を受けて総合学習の時間を中心に一年生での企画が展開されています。今までの歴史と伝統の上に、新たな年輪が築かれていきます。卒業生のみならず、卒業おめでとうございます。みなさんはこのような素晴らしい甲府昭和高校を巣立っていきます。二〇三三年十一月二十二日にタイムカプセル開封式に再会できることを願っております。(教頭 小川弘一)